

甲斐市立敷島南小学校 自己評価書

令和8年1月30日（金）作成

校長 五味 正年

記述者 教頭 中村 忠廣

学校教育目標

「豊かな人間性とたくましく生きぬく力を身につける子どもの育成」

- 具体目標
- ・明るく健やかな子ども
 - ・心豊かで思いやりのある子ども
 - ・よく学びよく考える子ども
 - ・進んで行動しやりぬく子ども

学校経営方針

- (1) 授業を中心に、教育活動全体を通して、教育目標の具現化に努める。
- (2) 「子どものために」を基本とし、子どもの居場所づくりを進める。
 - ・教科指導に力を入れ、一人の取り残しもないように努め、児童のやる気を上げる授業を行う。
 - ・「学級づくり」に力を入れ、ルールとリレーションのある学級運営を行う。
 - ・いじめを未然防止するための取組を行うと同時に、全教職員の目で早期発見・早期対応を心がける。
- (3) 子どもの人権を尊重した児童理解に努め、適切な児童理解と受容的・共感的態度に基づく指導に努める。
 - ・受容と許容を区別し、「チーム敷南」としてしっかりとした軸（ぶれない外せない教育方針）をもった指導を行う。（話を受け止めても、許してはいけないことは毅然とした態度で指導する。）
- (4) 誠意をもち、児童・保護者・地域とともにある信頼される学校づくりに努める。
 - ・HPの更新や学校だよりによる学校情報の発信、並びに授業参観や学校開放等による学校公開に努める。
 - ・保護者、地域の思いや願いに寄り添う開かれた学校、特色ある学校の具現化に努める。
 - ・家庭・地域との連携によるPTA活動の充実、地域学習の素材や人材の活用、外部講師の招請など、それぞれの教育力を生かす中で、地域に根ざした教育の推進に努める。
- (5) 子どもも教職員も育つ学校づくりに努める。
 - 〈子どもに関して〉
 - ・集団への所属感、自己有用感、成就感を味わわせる教育を推進し、児童個々の能力や個性を伸ばすよう努める。
 - ・自他の生命を尊ぶ教育を推進するとともに児童の心身の健康管理に努める。
 - 〈教職員に関して〉
 - ・学習指導要領の理念を共有し、教職員の意識改革や授業改善につながる授業研究を主体とした同僚性、協働性のある校内研修を推進する。
 - ・教職員一人一人が学校経営への参画意識を持ち、個々の能力や個性を生かし組織的・計画的・継続的な教育活動を構築する。
- (6) 教育分野のDX推進とデジタル社会へ適応するための基礎の育成に努める。
 - ・子ども主体の授業づくりを目指したICT教育の推進
 - ・デジタルを活用した児童、保護者との情報共有
- (7) P（計画）D（実践）C（点検）A（見直し）の組織マネジメントサイクルを活用し、説明責任と結果責任を果たすことのできる教育活動に日々努める。
- (8) インクルーシブ教育や合理的配慮の理解を教職員内で共通理解し、特別な支援を必要とする児童に対して、その児童の指導・援助について学校全体で対応する体制を構築し、ニーズに応える教育を推進する。
- (9) 学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」の推進をする。（コミュニティ・スクール）

1 全体評価 回答 A：とてもそう思う B：そう思う C：ややそう思わない D：そう思わない E：わからない

○学校経営方針に基づき、校長のリーダーシップのもと、学校教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行したこと及び組織として同じ方向を向き教育活動を推進してきたことにより、今年度の教職員自己評価・児童アンケート及び保護者アンケートの結果は、全体的に肯定的回答が高い割合をしめた。このことから、本年度も敷島南小学校の総合評価は、良好な水準にあると考えられる。

【教職員】

- 全体的に肯定的な回答の割合が高い。このことから、学校全体として教育目標や学校経営方針の実現に高い意識をもち、組織的な対応ができていたと考えられる。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を通し、子ども主体の授業や ICT を効果的に活用した授業といった新しい学びへの対応も進んでいるといえる。さらに地域に開かれた学校づくりを通し、保護者や地域との良好な関係を築くことができていると考えられる。
- いくつかの項目で改善の余地があることも示されている。これらについては、組織的な取組を進めていくことが、さらなる教育水準の向上に資するものとする。

【児童】

- 全体的に肯定的な回答の割合が高い。9割以上の肯定的な回答がみられる項目もあり、多くの児童が、楽しく安心した環境の中で学校生活を送っていることが推察される。学校経営方針にもある「子どものために」を基本とし、子どもの居場所づくりを進め、学級づくりをベースとした児童同士、児童と教職員との関係の構築および授業づくりの研究を進めたことによる「わかる」授業の創造等が、その要因の一つとして考えられる。

【保護者】

- 全体的に肯定的な回答の割合が高い。学校の学習や生徒指導への取組、児童と教職員との関係や保護者と教職員との関係が高く評価されており、子どもにとって学校が楽しく安心して過ごせる場所だと捉えていることがうかがえる。また、学校だよりや授業参観・学校開放日等による学校情報の発信・公開も高い評価となっており、地域に開かれた学校運営が浸透している。
- さらなる改善が求められる項目として、「家庭学習の推進」と「1人1台端末を活用した教育の充実」があげられる。特に家庭学習の推進については、児童アンケートの結果からも否定的な回答の割合が高く、今後の課題の一つといえる。

【家庭での生活において改善したいことは、以下の通りである。】

- 「スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを、学習以外で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。」
 - ＜児童＞ 「3時間以上使っている」：26.8%
 - ＜保護者＞ 「3時間以上使っている」：14.4%
- 「朝ごはんを食べて登校していますか。」
 - ＜児童＞ 「あまり食べていない」「食べていない」：8.7%
 - ＜保護者＞ 「あまり食べていない」「食べていない」：2.0%
- 「月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。」
 - ＜児童＞ 「午後11時以降」：22%
- 「月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」
 - ＜児童＞ 「全くしない」：19.9%
 - ＜保護者＞ 「全くしない」：31.7%

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
Aとてもそう思う Bそう思う Cややそう思わない Dそう思わない	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）の割合が高かった。このことから、校長のリーダーシップのもと、学校教育目標達成に向け、学校経営方針が教職員の中で理解され、様々な教育活動が着実に実践されてきたことがうかがえる。</p> <p>○学校が、児童にとって楽しく安心できる場所となっている。</p> <p>【児童】 「学校は楽しいですか。」：90.1%</p> <p>【保護者】 「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」：92.7%</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。</p> <p>「あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている」：5.9%</p> <p>また、この項目については、肯定的な回答の割合は高いものの、「とてもそう思う」と回答した割合は、他の項目と比較し低い傾向にある。</p>
改善策	<p>◆子どもたちが、楽しく安心した環境の中で学校生活を送ることができるよう、教育目標達成に向け、学校経営方針を踏まえ、組織での対応を一層推進する。</p> <p>◆各行事等の反省を次年度の改善に確実につなげるため、引き継ぎを徹底する。また、新たな提案の際は以前の課題と具体的な改善案を提示していくことにより、改善点の意識化を図っていく。</p>
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）の割合が高い。「危機管理マニュアルの理解」「情報の保護」「報告・連絡・相談」等の項目の肯定的な回答の割合が100%となっている。このことから、教職員一人一人が敷島南小教職員であるという自覚をもち、高い意識で日々の業務にあたっていたことが推察される。</p> <p>○「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」の項目では、「とてもそう思う」と回答した割合が、67.7%に達し、他の項目と比較しても高い傾向にある。このことは、これまでの取組を通して教職員の意識に変革がみられ、本校の働き方改革が進んできているものと考えられる。</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。</p> <p>「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」：5.9%</p> <p>「あなたは、校務支援システムを十分活用できている。」：5.9%</p> <p>「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」：5.9%</p>
改善策	<p>◆学校経営方針の中に掲げている通り、同僚性を生かした教育活動や学習指導を展開していくことが望まれる。「チーム敷南」として組織的に対応できるよう、本年度も職員会議中の情報の共有・学年会議の実施・各種委員会等を実施してきている。これらをより効果的・実践的なものにするためには、時間的なゆとりが不可欠である。今後も働き方改革をさらに推進し、業務について互いに深めあえる時間を確保していきたい。</p> <p>◆校務支援システムは、R8年度から新規システムへ移行となる。このことから、従来のシステムとは操作性が異なり、研修等が必要となってくる。情報共有の方法を工夫しながら、教職員が活用しやすい環境を整えていく必要がある。</p>
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）の割合が高く、特に「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている」「ICTを効果的に活用した授業を行っている。」において教職員の自己評価で、100%に達した。これは、児童の学力向上に向け、教職員一人一人が授業改善・学習指導に取り組んできた成果だといえる。また、「主体的・対話的に学ぶ授業」</p>

	<p>を柱に研究を進めた校内研究に、教職員が主体的に参画し、日々の実践を積み重ねてきている表れだといえる。</p> <p>【児童】 「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」：98.8%</p> <p>【保護者】 「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」：93.7%</p> <p>【児童】 「学校の授業は楽しいですか。」：89.5%</p> <p>「国語の授業の内容はわかりますか。」：98.8%</p> <p>「算数の授業の内容はわかりますか。」：90.1%</p> <p>【保護者】 「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」86.9%</p> <p>【児童】 「宿題を忘れずにしていますか。」：80.9%</p> <p>【保護者】 「お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか。」：95.7%</p> <p>○家庭での自主的な学習に関する項目について、児童アンケートでは否定的な回答の割合が36.4%と他の項目と比較し高い傾向にある。また保護者アンケートからも55.4%の否定的な回答状況となり、本校の課題の一つだといえる。</p> <p>【児童】 「月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。」：36.4%（否定的な回答）</p> <p>【保護者】 「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習（学校からの指示は含む。但し、塾や家庭教師は、除く）をしていますか。」：55.4%</p> <p>○1人1台端末等のICT機器を活用した授業については、教職員だけではなく児童アンケートの結果から、「クロームブックを使った授業は、役に立っていますか。」の肯定的な回答が94.6%と高い傾向にあり、児童もその有効性を感じていることがわかる。一方で、保護者アンケートの結果からは、否定的な回答の割合が半数以上となり、また「わからない」との回答も18.1%となっている。</p> <p>【児童】 「クロームブックを使った授業は、役に立っていますか。」：94.6%</p> <p>【保護者】 「学校は、クロームブックを使った学習に、力を入れて取り組んでいると思う。」：65.1%</p> <p>【保護者】 「クロームブックを使った学習は、ためになっていると思う。」：53.9%（否定的な回答） わからない：18.1%</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。</p> <p>「あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。」：6.3%</p> <p>「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」：5.9%</p> <p>「あなたは、やまなしスタンダードに沿った授業づくりを行っている。」：5.9%</p>
改善策	<p>◆授業における一人一台端末（クロームブック）の使用は定着してきており、活用方法も研究および実践が進んできつつある。今後も、先進的な事例研究、実践的な研修をすすめ、児童の情報活用能力の育成に努めていきたい。さらに、多様な学び方も含め、1人1台端末の持ち帰りを推進し家庭での活用場面を増やすことで、保護者への周知と理解を進めていく。</p> <p>◆宿題への取組はしっかりと行えているものの、自主的に学習に取り組むことに課題がみられる。今後も、家庭学習の大切さとポイントを示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付し、学校と家庭が連携し、自主的な学習態度の育成に努めていく。</p>

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）の割合が高い。特に、「あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。（対：児童生徒）」の項目が、教職員の自己評価で100%に達し、あわせて「あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。」の項目が94.1%と高水準となっている。このことから、教職員が高い意識をもち、対話等のコミュニケーションを大事にしているといえる。さらに、こうした取組が学級づくりを推進し、子ども同士・子どもと教職員との関係の構築につながり、学級・学校が安心して過ごすことのできる居場所となっていることがうかがえる。</p> <p>【児童】 「クラス（学年）に仲の良い友達がありますか。」：94.9% 「人が困っているときは、進んで助けていますか。」：86.4%</p> <p>【保護者】 「お子さんの仲の良い友達を知っている。」：93.7% 「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか。」：68.0%</p> <p>【児童】 「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」：96.7%</p> <p>【保護者】 「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」：93.2%</p> <p>【教職員】 「あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。（対：児童生徒）」：100%</p> <p>【児童】 「学校のきまりや約束を守っていますか。」：89.5%</p> <p>【保護者】 「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」：92.2%</p> <p>【教職員】 「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」：94.1%</p> <p>○「あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができています。」の項目に対する肯定的な回答の割合が97.1%となっており、教職員にその重要性が十分に浸透しているといえる。</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。 「あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。」：5.9% 「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」：5.9% 「あなたは、キャリア教育（キャリア・パスポートの活用・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。」：5.9% 「あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができています。」：2.9% 「あなたの学校は、生徒指導の課題について、全教職員の共通理解の下、取り組んでいる。」：5.9%</p>
改善策	<p>◆学校経営方針にある「子どものために」を根幹に、児童との積極的対話や関わりを増やす中で信頼関係を築き、児童が何か困ったことがあった時には、いつでも教職員に相談できるよう、良好な環境づくりに努める。</p> <p>◆いじめ、不登校等の諸課題に対しては、日常的な児童理解を徹底し、未然防止や早期発見に留意する。また、事案発生時には校長のリーダーシップのもと、組織として迅速で正確に事実確認をし、関係機関とも連携しながら組織として早期対応を図る。</p> <p>◆児童が自己を見つめ、将来の夢や希望をもつことができるように、キャリア・パスポートの取組を計画的に行う。また、ただ単に勤労観・職業観を指導にとどまらず、道徳教育をはじめとして教育活動全般を通し、豊かな人間性をはじめ汎用的な資質能力を、教科横断的かつ意図的に育成していく。</p>

V 地域との連携について	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）の割合が高く、保護者や地域と緊密に連携しながら、教育活動が展開されているといえる。学校だよりやHPによる情報発信、授業参観や学校開放日の実施に努めるとともに、地域とのつながりを大切に活動した活動を重視することで、「地域に開かれた学校」となっていることがうかがえる。</p> <p>【保護者】「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」：95.2%</p> <p>【教職員】「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」：94.1%</p> <p>【保護者】「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」：82.6% 「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」：97.7%</p> <p>【教職員】「あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」：94.1%</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。 「あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」：5.9% 「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」：5.9% 「あなたは、PTA活動に積極的に参加している。」：2.9% 「あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。」：5.9% 「あなたは、保護者や地域と連携し、良好な関係づくりに努めている。」：5.9%</p>
	<p>◆今年度も、地域探検・公共施設等の社会科見学、福祉や絵画・ボール運動等の外部講師による授業、企業等による出前授業の機会を設け、地域の方による学校教育への参画を図った。今後も地域の教育力を生かした教育実践を進め、地域との連携を深めていく。</p> <p>◆学校が教育活動を円滑に進めるためには、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。日頃からのコミュニケーションを大切に、情報を発信したり保護者や地域住民の意見や要望に誠意をもって耳を傾けたりして、相互の信頼関係を築く努力を続けていく。</p> <p>◆学校運営協議会をはじめ見守り隊等、地域の方とのつながりを大切にしていこう。地域の方にも学校行事等への案内を通じて、児童や学校の様子を直接参観していただく機会を設け、地域との垣根の低い「地域に開かれた学校」づくりを一層推進していく。</p>
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）の割合が高く、教職員が学校の特色をとらえ、児童への指導にあたっていることがうかがえる。あいさつについては、学校でも校長のリーダーシップのもと重点的に取組を進めてきたが、児童・保護者ともに肯定的な回答の割合が他の項目と比べ低くなっており、今後のさらなる指導の充実と定着に向けた取組が求められている。</p>

	<p>【児童】 「学校行事や児童会活動に、しっかり取り組んでいますか。」：92.8%</p> <p>【保護者】 「学校行事や児童会活動を通して、成長がみられますか。」：90.72%</p> <p>【教職員】 「あなたは、学校行事や児童会活動に児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。」：97.1%</p> <p>【児童】 「清そう活動をしっかりしていますか。」：95.5%</p> <p>【教職員】 「あなたは、児童が進んで掃除に取り組むよう、指導に努めている。」 ：94.1%</p> <p>【児童】 「だれとでもあいさつをしていますか。」：80.7%</p> <p>【保護者】 「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導していると思う。」 ：73.8%</p> <p>【教職員】 「あなたは、児童が進んであいさつに取り組むよう、指導に努めている。」 ：94.1%</p> <p>・すべての設問で、C回答あり。</p> <p>「あなたは、道徳教育が充実したものになるよう、指導に努めている。」：5.9%</p> <p>「あなたは、学校行事や児童会活動に児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。」 ：2.9%</p> <p>「あなたは、児童が進んで掃除に取り組むよう、指導に努めている。」：5.9%</p> <p>「あなたは、児童が進んであいさつに取り組むよう、指導に努めている。」：5.9%</p>
改善策	<p>◆今後も、学校の特色を生かした教育活動をさらに充実させ、児童が生き生きと学校生活を送ることができるように、全教職員が共通認識のもとで協働し、取組を推進していく。</p> <p>◆学校行事においては、ねらいを明確にし、児童が達成感や成就感・充実感を味わわせることができるよう、さらなる内容の充実に努める。</p> <p>◆挨拶や清掃の励行や児童会活動の活性化のために、児童会を中心に内容を工夫しながら日々取組を進めている。充実した自治的な活動がより豊かに展開されるよう、日々の取組を積み上げていく。</p>
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）の割合が高い。「創甲斐教育」については、継続的に取組が行われ、教職員全体の共通理解が図られている。今後も目指すべき児童像を共有し、教育課程のさらなる深化と指導体制の充実が求められている。</p> <p>【児童】 「月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」：49.7%（30分以下 まったくしない）</p> <p>【保護者】 「お子さんは家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」：79.9%（30分以下 まったくしない わからない）</p> <p>【教職員】 「あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。」：97.1%</p> <p>【児童】 「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。」 ：28.8%（否定的回答）</p> <p>【教職員】 「あなたは、様々な場面・活動において、児童の表現力を高める取組を行っている。」：100%</p>

	<p>・以下の設問は、C回答あり。 「あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。」：2. 9% 「あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。」：5. 9%</p>
改善策	<p>◆朝の時間の読書活動、定期的な図書だよりの発行、読書週間での「おすすめの本の紹介」、地域ボランティアによる読み聞かせ等多様な取組を通し本の魅力を発信していく。</p> <p>◆国語科を中心に「話す」「書く」能力を継続的に育成するとともに、教育活動全体を通じて自己を表現する機会を大切にしていく。あわせて、児童が安心して表現できる環境や互いを認め合う関係づくりも推進していく。</p> <p>◆体育の授業、縦割り班での遊び、長縄大会等の取組、保健の授業、定期的な保健だよりの発行等を通し、体を動かす心地よさや大切さを伝えていく。運動や運動遊びの日常化・生活化を図り、児童が主体的に体力の向上に取り組める環境を整える。</p>
<h3>3 まとめ</h3> <p>〈成果〉</p> <p>教職員自己評価、保護者アンケート、児童アンケートとも、全体的に肯定的に評価されており、学校経営方針のもと、多様な教育活動を展開することができた。学校教育目標の実現に向け、教職員がチームとして組織で対応することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校長のリーダーシップのもと、学校教育目標達成に向け、学校経営方針が教職員の中で理解され、様々な教育活動が着実に実践されてきている。教職員一人一人が敷島南小教職員であるという自覚をもち、高い意識で日々の業務にあたっていたことが推察される。 ○ 教職員が高い意識をもち、対話等のコミュニケーションを大事にし、子ども同士・子どもと教職員との関係の構築に努めたことにより、学級・学校が楽しく安心して過ごすことのできる居場所となっている。 ○ これまでの様々な取組により教職員の意識に変革がみられ、働き方改革が進んできている。 ○ 「主体的・対話的に学ぶ授業」を柱に研究を進めた校内研究に、教職員が主体的に参画し、児童の学力向上に向け、教職員一人一人が授業改善・学習指導に取り組んでいる。 ○ 学校だよりやHPによる情報発信、授業参観や学校開放日の実施に努めるとともに、地域とのつながりを大切に活動を重ねることで、「地域に開かれた学校」となっている。 <p>〈課題（いっそう充実させたい事項）〉</p> <p>評価項目の一つ一つが教職員に課せられた目標であるということを感じ、学校、保護者、地域が連携しながら、引き続き、豊かな教育活動の推進を図っていききたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PDCA サイクルのさらなる確立に向け、各行事等の反省を次年度の改善に確実につなげるため、引き継ぎを徹底し、改善点の意識化を図っていく。 ○ 今後も働き方改革をさらに推進し、子供に向き合う時間・業務について互いに深めあえる時間を確保していききたい。 ○ ICT 活用について、先進的な事例研究、実践的な研修をすすめ、児童の情報活用能力の育成に努めていききたい。さらに1人1台端末の持ち帰りを推進し、保護者への周知と理解を進めていく。 ○ 家庭学習の大切さを家庭と共有・連携し、自主的な学習態度の育成に努めていく。 	